

珍しいお供え物

北白川高盛御供



①機械は使わず小芋の皮を1つずつ手作業でむく。

皮を剥いた
ナス
鮭
味噌

◆小芋◆

周囲は15個

必ず奇数の数！

高さは13段

る積のみ125段。その中から195個を積むのが夜8時から明けまでには一晩中かかる。そのたまに上げるまでには、上時までにかかる。そのたまに上げるまでには、上時までにかかる。

でらに315キロ程度仕入れ、その中から195個を積むのが夜8時から明けまでには一晩中かかる。

る積のみ125段。その中から195個を積むのが夜8時から明けまでには、上時までにかかる。そのたまに上げるまでには、上時までにかかる。

②小芋を湯がいて赤味噌を接着剤代わりに積み上げていく。

↓

この作業が最も重要で大変！
バランスを崩さないように土台からしっかりと。

③テッペンに鮭の切り身と皮をむいたナスを盛りつけて完成！

彩りも大切に。
鮭の鮮やかなオレンジ色がポイント。

「りゅうず」が、螺旋状に並ぶように並べます。
小芋の芯のことを指す。
りゅうずが螺旋状に並ばないといけないため、小芋にはっきりしたりゅうずが入っているものでないと使うことができない。

後ろには牡鹿と雌鹿がいる。

シイラの全長は約80cmだが、飾りつけに使用するのはそのうち3割程度のみ。いかに神様が偉大な存在とされているかが分かる。

6月ごろがシーズン。10月の祭りの時には作られていないので、近くの畠でお百姓さんにお供え物専用として作ってもらっている。

大根のなます

シイラの腹の部分

なぜ円錐形に盛るのか

祇園祭りの長刀鉾のかたちをとっている。円錐形に積むのは神様に捧げる時の1つの美の形。(説明アリ)

するめ

お菊の紋などの飾り

さつまいもを3~5mmに薄く切り、型に合わせて彫刻刀などを使ってつくる。

「より高く、美しく、神様へのおもてなし」

高盛御供で特徴的なのは、何と言ってもこの高く積みあげられたお供え物たち。

高いもので 50 cm にもおよびます。保存会の方々のモットーは、「より高く、より美しく盛る」。今秋も神様への感謝の気持ちを届けるために、盛方は夜を徹して作ります。



高盛の歴史は 300 年ほどといわれています。以前はお供えを作る場所は男性以外は入ることができませんでした。高盛を運ぶのはお嫁入りする前の女性と決まっていたといいますが、今では一般公開されて、親子で運ぶこともあります。

さいごに。

祭りなどで神様に献上するお食事のことを神饌といいます。神様をお供え物でもてなし、そのおさがりを参列した人たちでいただくことを「直会」といい、日本では古くから行われてきました。高盛御供は年に一度たった 1 日。この 1 日のために地方から野菜を取り寄せるなど、下準備から仕上げまで相当な時間をかけて丁寧に作られています。

お供え物を供える際は、感謝の気持ちを伝えることを忘れないようにしたいのですね。

きたしらかわてんしんぐう かんこうさい 北白川天神宮 還幸祭

輝き巡る
三基の御神輿

北白川天神宮は室町時代に足利義政が銀閣寺に向かう途上、久保田の森から現在の千古山に差し掛かったところ、馬が嘶き出したので調べてみると、そこに祠があつたため丁重に神を祀り鎮めたことがはじまりといわれています。この神宮の還幸祭は体育の日の前日に行われ、太鼓や鉦を鳴らしながら北白川の町内を3基の御神輿が半日かけて練り歩きます。

白川今出川の交差点ではひときわ高く御神輿を担ぐ「差し上げ」が派手に行われ、場が一体となり熱く盛り上がります。かたや、巡行の合間の休憩では温かさと和やかさが感じられます。時間によって、御神輿の表情が変わっていくのも見所です。昼間はまばゆい白金に輝き、夕方には夕陽を受けてオレンジ色へと輝きが変わる様子には目を見張ります。そして提灯が灯る頃、神社に戻った御神輿は綱に結び付けられ、担ぎ手や見物人が総出で引っ張り上げて本殿に戻り、その後「還幸の儀」が執り行われます。賑やかさと静けさの二面性を持った祭りといえるでしょう。

白川女とは

白川女とは、昔、朝摘みの花や自家製の番茶を入れた藤の籠を頭上にのせ、「花いりまへんか～」と唄声のような売り声を白川の地に響かせていた女性たちのことをいいます。北白川天神宮の還幸祭では、珍しい子どもの白川女の姿を見るることができます。白川女独特の衣装を身にまとった女の子たちが歩く姿はとても可愛らしく、つい見とれてしまいます。



祭事 info

10月第2月曜日の前日 朝 8:00～

京都市左京区北白川仕伏町 42

市バス(5・204系統)「北白川校前」徒歩7分

市バス(17・32・100・102・203系統)「銀閣寺道」徒歩10分

よしだじんじゃ こうりだいみょうじんけんぼこ

吉田神社

木瓜大明神剣鉾

地域の集う祭り

木

瓜大明神とは吉田神社の摂社である今宮社に祀られている大己貴神、大山次麗祇神、健速須佐之男命のことです。樂器の生演奏の中、今宮社ではお清めが行われます。それが終わると男性たちの「おー！」という雄々しい掛け声とともに今宮社から御神輿が出され、それまでの神秘的な空気が一転し、ここから祭りの本番が始まるぞといった熱気が伝わってきます。

昔は地元の男性だけで祭りを行っていましたが、今では近くの京都大学をはじめとする学生ボランティアや留学生たち60人ほどが参加しています。祭装束をまとい、長い剣鉾をもって町を練り歩いていきます。

氏子の人たちが玄関先から出てきて剣鉾が通るのを見届けます。普段は行き交う自動車で騒々しい町の中に響く「チャリンチャリン」という高い音色は、かつての時代の雰囲気を思い起こさせ、まるでタイムスリップしたかのようです。

吉田神社の剣鉾祭り事情

吉田神社の剣鉾の大きさや装飾は多種多様で、中でも女性用の小振りのものは他の神社には無いものです。

祭りは元来男性だけで行っていましたが、昨今は参加人数が少ないので御神輿以外は男女問わず、海外の方でも参加できるようにしています。特に女性の剣鉾差しの育成には力を入れています。

京都大学や京都造形芸術大学など、地域の学生たちも参加できるように取組を行っています。

祭事 info

10月第2日曜日 11:00~

京都市左京区吉田神楽岡町 30

市バス(31・65・201・206系統)「京大正門前」徒歩8分



よしだじんじやいまみやしゃ よしだいまみやだいこ

吉田神社 今宮社

吉田今宮太鼓

祭りを
際立たせる響き

吉 田今宮太鼓は1981年に吉田児童館の夏祭りの盆踊りで演奏したことがはじまりで、吉田地域を中心に活動を行っています。吉田神社の末社である今宮社の神幸祭は10月第2日曜日の前々日から3日間行われ、吉田今宮太鼓は2日目と3日目に見ることができます。

祭りが始まると「ヨーサア」という掛け声があがり、御神輿の上に悪いものを食べてくれるという鳳凰像が配置されます。3日目の神幸祭では武者、稚児、剣鉾、御神輿の行列が吉田町内を巡行し、吉田今宮太鼓の演奏が複数箇所で行われます。祭りのメインといえる御神輿や伝統ある剣鉾とともに、吉田今宮太鼓は祭りを賑やかに盛り上げる迫力のある音を町内に響かせます。日本の伝統を楽しみながら見ることができる、素敵なお祭りといえるでしょう。



よしだいまみやだいこ 吉田今宮太鼓とは

吉田今宮太鼓は吉田地域を中心に和太鼓を演奏するグループであり、伝統文化を継承するために祭りや地域イベントなどで披露して和太鼓の魅力を発信しています。また、地域の小学生や大学生、留学生、老人ホームや障がい者施設の方々を対象に和太鼓の体験や指導などを行って、年齢や国籍を越えた交流を深めています。



祭事 info

10月第2日曜日 朝 9:00～

京都市左京区吉田神楽岡町 30

市バス(31・65・201・206系統)「京大正門前」徒歩8分

たなかじんじゃ うじこたいさい

田中神社 氏子大祭

社に響く
人々の生命

田 中神社の歴史は古く、平安時代の文献にも記されています。鴨氏族・田中氏が祝(ハフリ=神に仕える人)を勤め奉っていた神社を囲む地域を「田中」と称し、田中姓の祖といわれています。

叡山電鉄「元田中」駅の近く、住宅街の中に静かに鎮座する田中神社では毎年10月の第3日曜日、氏子大祭が行われます。午前10時に本殿にて神事が斎行され、午後からは稚児行列・子ども神輿が巡行されます。

また、地域の方々による和太鼓の奉納演芸やbingoゲーム大会等が行われ、境内は子どもたちをはじめ、沢山の人で賑わって笑い声が響き渡ります。

現在は子どもの数の減少という問題がありますが、「地域の方々に喜び、楽しんでいただける祭りを継承していきたい。田中神社が心のふる里になれば」と願う神主さんの熱い気持ちがありました。



くじやく 孔雀みくじ

田中神社の境内では、神の使いとされている孔雀を飼っています。また孔雀の卵の形をした「孔雀みくじ」というものがあり、中には色紙で作られた羽を広げた孔雀が入っています。開運が祈念されているのでぜひお試しください。



祭事 info

10月第3日曜日 朝 10:00~

京都市左京区田中西樋ノ口町 1

市バス(3・31・65・206系統)「叡電元田中」徒歩3分
叡山電鉄「元田中」徒歩3分